

冬にしっかり根を張ろう

実りの秋も終わり、すっかり冬らしくなってきました。まだ、カッターシャツで過ごす寒さ知らずの元気な生徒もいますが、2学期も終わりに近づき、2学期や平成25年を振り返る季節になりました。

2学期は、学校にも慣れ、多くの行事を通して成長した姿を見ることができました。また逆に、行事や学習などの取組の中で、成長を妨げている問題点や課題も見つかりました。今一年生は、中学校生活を順調に送るための習慣を身に付けるときです。面倒なことや大変なことから逃げずに、しっかりとした生活を送ることで、来年以降の中学校生活を充実させる土台を作っていきたいですね。

植物も、冬にしっかりと根を張ることができると、春にしっかりと花を咲かせ、枝を伸ばし、実をつけます。中学生の今も、目に見えないところで努力し、しっかりとした根を張りたいたいですね。



12月の予定

- 5日(木)家庭教育教室
- 6日(金)火①～⑤, ⑥火災避難訓練
- 12日(木)⑤⑥長距離走大会 [13日長距離走大会予備日]
- 16日(月)～18日(水)保護者会
- 19日(木)金①～④, ⑤⑥球技大会, 給食終了
- 20日(金)終業式



-
- 12月24日(火)～26日(木)・1月6日(月)ウィンタースクール
 - 1月7日(火)始業式 1月8日(水)課題テスト, 給食開始
 - 1月22日(水)資源回収



校外学習を終えて

【山田先生編】

11月7日に校外学習を行いました。50人が10班に分かれ、生徒だけで知多半島内にある公立高校と企業の見学に行くというものです。高校や企業への見学依頼や一日のスケジュール作成など、全て自分たちでやらなければならないのですが、うまく役割を分担して活動できました。

校外学習から帰ってきた生徒は、高校の大きさや設備、ふだん見ることができない企業の裏側などに興奮していました。「〇〇高校に進学する！」と目標を決めた生徒もいます。少しでも勉強のやる気が高まったなら嬉しいです。

[追記]

(山田先生は、この次の日入院することになりました。)



サーティーワンアイスクリームにて

「今の私は幸せです」

11月29日(金)福祉実践教室が行われました。

福祉実践教室では、最初に講師の青木さんから、「私の生活について」の話がありました。人を支えられる人になりたいと思い今の仕事を選んだことや、一人暮らしをして自立すること、周りの人への感謝の気持ちなどについて話をされました。その中で、最後に話された「今の私は幸せです」という言葉が、心に残りました。内海中学校の生徒にも、生まれてきたことに感謝するだけでなく、簡単に今の自分の生活に不平不満を言うのではなく、「今の私は幸せです」と言えるような人生を歩んでいってほしいと思います。



青木さんの講演

～1年生は、車いす体験を行いました。～

全体会の後、学年ごとに、車いす体験、視覚障害者ガイドヘルプ体験、手話体験を行いました。1年生は、体育館で車いすを体験しました。最初は、車いすに乗る人と車いすを押して補助する人に分かれて、車いすに乗る人の気持ちや車いすを押す人の留意事項について学びました。次に、自分一人で車いすを操作し、思い通りに動かすことの難しさや車いすにとって段差が一番困ることから、バリアフリーの必要性を知ることができました。教室に戻ってから書いた生徒の感想からは、「障害をもつ人がいたら、積極的に補助したい」という気持ちが伝わってきました。



車いすで段差を体験

2学期を振り返って

☆2013も振り返ろう！

- ① 計画的・自主的・健康に中学校生活は送れましたか？
- ② 中学生として、すべきこと・できないといけないこと(義務)はできましたか？
- ③ 人のために役立つこと・自分の仕事や役割をしっかりと行うことはできましたか？

①～③のチェックポイントを挙げました。この3つのチェックポイントは、終業式に渡される通知表のチェックポイントでもあります。①は、出欠席の欄です。欠席なく学校に来れた人は、それだけでも素晴らしいことですが、宿題や提出物を忘れず、自主的に活動できた人は最高ですね。②は、各教科の5段階評価です。義務教育で習得すべき知識や能力が評価されています。Cの評価がある生徒は、自分の課題を克服する方法を懇談会等で相談してください。③は、委員会や係の活動に関する所見です。集団生活の中で自分の役割を果たしていくことは、自分の人生を豊かにします。そして、中学生として自分の将来について考えていける能力もつけていってほしいです。そういうことを考えるには、冬休みもいい機会ですね。「あけぼのタイム」でも、職業についての学習に取り組んでいきます。

ちょっといい話

【堀元先生編】

最近、テレビでこんな実験をしていました。「道で困っているおばあさんがいた時に、助ける人が多いのはどの国か」というものです。日本はシャイな国民性もあって、あまりいい順位ではなかったのですが、唯一、日本の高校生だけが歩けなくて困っているおばあさんを“おんぶ”してあげていました。“おんぶ”の文化は日本などのアジア独特の文化で、欧米では珍しいそうです。

そのとき、私は学校で見たある光景を思い出しました。1年生の男の子が、けがをしているクラスメイトをおんぶしてあげている場面です。その子だけではなく、いろいろな生徒が体調の悪い人にさりげなく声をかけているところを保健室ではよく見ます。

中学生になり、成長して“おんぶ”されるには体が大きくなってしまったけれど、代わりに誰か困っている人を今度は自分が背負ってあげる。1年生の中に、そういった気持ちをもった子がたくさんいるのをとても心強く思います。